

短期予報解説資料 2026年1月25日15時40分発表

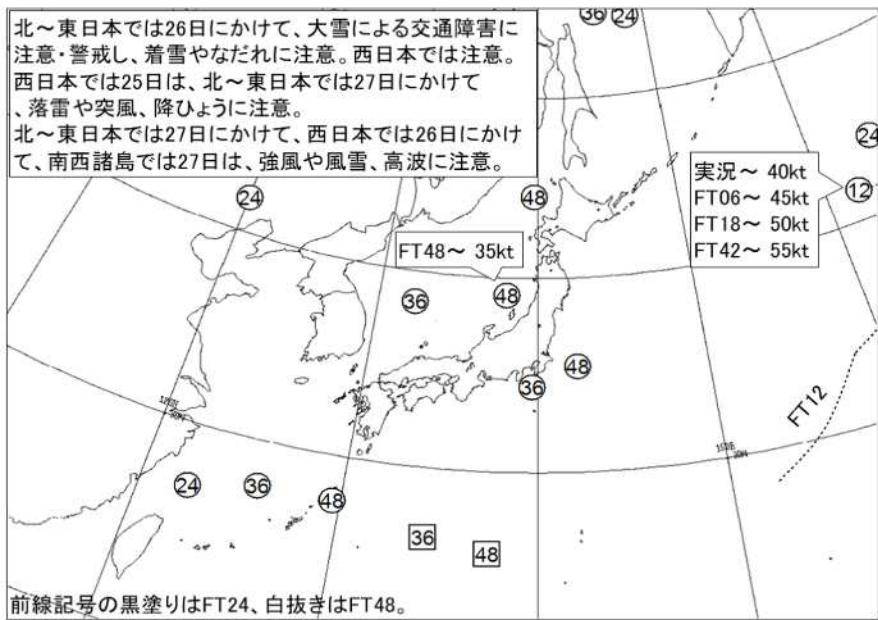
気象庁

1. 実況上の着目点

- ① 日本付近は強い冬型の気圧配置が続いている。西～北日本の上空1500m付近は-9°C以下の寒気に覆われ、日本海には離岸距離の短い寒気移流による雲域が広がり、雪雲は一部太平洋側にも流れ込んでいる。日本海寒帶気団収束帯(JPCZ)が不明瞭になりつつも山陰地方を指向。
- ② 500hPa -42°C以下の寒気を伴う寒冷渦が宗谷海峡付近を南東進。北海道付近には気圧の谷があつて南下。

- ③ 低気圧が日本のはるか東にあって、気圧の谷が伊豆諸島付近にのびており、周辺で雷を検知。

- ④ ①②の影響で、西～北日本の日本海側を中心に3時間に5～10cmの雪を観測。冬型の気圧配置の影響で、西～北日本ではやや強い風や強い風が吹き、波が高くしけの所がある。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 500hPa 5280m付近のトラフは日本の東に進み、JPCZは不明瞭化し、西日本の大雪はピークを過ぎつつある。冬型の気圧配置は26日以後は西から緩むが、下層寒気は残り、1項②の寒冷渦及び寒冷渦からのびるトラフが26日はじめにかけて北～東日本を通過する。北日本では1項②の気圧の谷で風が収束し、発達した雪雲の流入が続き降雪を強める所がある。北～東日本では26日にかけて、大雪による交通障害に注意・警戒し、着雪やなだれ、落雷、突風、降ひょうに注意。西日本では25日は、大雪による交通障害に注意し、着雪、なだれ、落雷、突風、降ひょうに注意。

- ② 500hPa 5400m付近のトラフに対応して26日夜には日本海に低気圧が発生し、27日夜にかけて北日本を通過する。また、27日は1項②の寒冷渦に対応した低気圧が北海道の西に発生して南下する。低気圧に向かう下層暖湿気と上空寒気の影響で大気の状態が不安定となり、雷を伴い降雪が強まって大雪となる所がある。北～東日本では27日は、大雪や着雪、なだれ、落雷、突風、降ひょうに注意。

- ③ 500hPa 5700m付近の正渦度極大域に対応して、低気圧が東シナ海を東進し、27日には南西諸島を通過する。南西諸島では降水の強まりに留意。

- ④ 2項①②の冬型の気圧配置や低気圧の影響で、強い風が吹いて波が高くなりしける所がある。北～東日本では27日にかけて、西日本では26日にかけて、南西諸島では27日は、強風や風雪、高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

- 4. 防災関連事項【量的予報等】** ① 雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。② 降雪量(18時からの24時間)：東北70、北海道50、北陸40、関東甲信30、近畿15、東海・中国10cm。③ 波浪(明日まで)：小笠原6、伊豆諸島5、北海道・東北・北陸・近畿・中国4、東海3m。④ 高潮(明日まで)：北日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 「大雪に関する全般気象情報」を17時頃に発表予定。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。